

<白金標準、高値の伸びが消えると修正安へ・・・>



(出所：オアシス)

15日にフォード自動車が電気自動車の生産ラインをガソリン車とハイブリットへ変更すると報道され、16日にはEUがガソリンやディーゼルを燃料とする内燃機関を持つ新車の販売を2035年から禁止するはずだったが、内燃機関車に対する事実上の新車販売禁止を撤回し、プラグインハイブリッド車や、エンジンが搭載された航続距離延長型電気自動車（EV）はもちろん、内燃機関を持つ多数の新車の販売が可能となり、欧州市場でのプラチナ需要の改善に結び付く要因を好感し、今後アジア市場の指標となる広州先物取引所のプラチナ価格は450元から533元まで上昇している。その動きはNY白金で2008年以來の2000ドルを超える高値まで押し上げており、史上最高値である2308ドルに向けた動きが続いている。また白金標準先物は、10月の高値8250円を上回ると青天井の値動きを強めて週末には9370円まで高値を試し、高値更新から5日間で1120円の上昇を演じている。そのため急速な上昇に対する警戒感も強まると思え、週末の安値である9128円を下回る場合は目先の調整に注意が必要と思われる。特に24日には新甫12月限が発会を迎える事から、発会以降の修正安には注意が必要に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが上昇し、シグナルも上昇している。RCIでは短期と長期が90%以上を維持している。ただ日足と指数平滑移動平均線の乖離が拡大した状態であり、9000円に向けた値動きに注意と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,920,000 円(2025 年 12 月 22 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 116,160 円(2025 年 12 月 22 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>